

四半期報告書

(第76期第2四半期)

株式会社 タタリ

香川県高松市新田町甲34番地

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	5
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	20

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年8月10日

【四半期会計期間】 第76期第2四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

【会社名】 株式会社タダノ

【英訳名】 TADANO LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 氏家 俊明

【本店の所在の場所】 香川県高松市新田町甲34番地

【電話番号】 高松 (087)839-5555 (代表)

【事務連絡者氏名】 理事 経理部長 橋本 勝久

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田錦町2丁目2番地1 KANDA SQUARE 18階

【電話番号】 東京 (03)6811-7188 (代表)

【事務連絡者氏名】 国内管理部長 山根 信之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第75期 第2四半期 連結累計期間	第76期 第2四半期 連結累計期間	第75期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年1月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日
売上高	(百万円)	131,310	133,267	192,932
営業利益	(百万円)	4,440	8,797	7,191
経常利益	(百万円)	4,201	7,820	6,540
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	(百万円)	1,978	3,250	2,210
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	9,928	9,373	8,305
純資産額	(百万円)	169,383	176,204	167,767
総資産額	(百万円)	352,901	366,750	356,693
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	15.60	25.62	17.43
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	47.8	47.8	46.9
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△16,043	△1,755	△20,419
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	4,922	△1,367	4,517
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△2,747	△3,924	△5,048
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(百万円)	105,819	94,205	97,990

回次		第75期 第2四半期 連結会計期間	第76期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	0.74	18.94

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 当社グループは第75期より、決算日を3月31日から12月31日に変更しております。この変更に伴い、第75期第2四半期連結累計期間は、当社及び3月決算であった連結対象会社は2022年4月1日から2022年9月30日までの6か月間を、従来より12月決算会社である連結対象会社は2022年1月1日から2022年9月30日までの9か月間を連結する変則的な決算となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績

当社グループは、当社の2022年6月24日開催の第74回定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受け、前期より決算期(事業年度の末日)を3月31日から12月31日に変更し、決算期を統一しました。従いまして、前連結会計年度は決算期変更の経過期間となり、前第2四半期連結累計期間については、当社及び3月決算であった連結対象子会社は6か月間(2022年4月1日～2022年9月30日)、12月決算の連結対象子会社は9か月間(2022年1月1日～2022年9月30日)を連結対象期間とした変則的な決算となりました。このため、対前年同四半期増減率を記載していません。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種経済政策効果もあり、緩やかに回復しました。海外においても、一部地域に弱さがみられるものの、景気は緩やかに回復しました。

一方で、ロシア・ウクライナ問題の長期化やインフレ・円安進行などにより、原材料・エネルギー価格は高止まりし、調達・物流環境は厳しい状況が続きました。

私どもの業界は、日本では、大型公共工事を中心とした順調な稼働を背景に、需要は堅調に推移しました。海外においては、緩やかな景気回復を背景に、欧州を除く全ての地域で需要は増加傾向となりました。

日本向け売上高は、490億8千4百万円となりました。海外向け売上高は、841億8千2百万円となりました。この結果、総売上高は1,332億6千7百万円、海外売上高比率は63.2%となりました。

営業利益は、87億9千7百万円、経常利益は78億2千万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は32億5千万円となりました。

さて、2018年1月19日に公表しました米国排ガス規制の緩和措置に関する自己申告について、2021年1月、米国当局(環境保護庁・司法省)から当社グループによる違反とそれに伴う民事制裁金(Civil Penalty)4,050万USドル及びその他の合意条件について提案を受け、2021年3月期に4,050万USドルを引当計上いたしました。当局との協議を継続する中、追加費用が発生する見込みが高くなったため、2022年3月期に1,176万USドルを追加で引当計上いたしました。なお、当局との協議は継続中であり、最終的に確定した段階において、改めてお知らせいたします。

セグメント別の状況は次のとおりです。なお、セグメント別とは、当社及び連結対象子会社の所在地別の売上高・営業利益であり、仕向地別売上高とは異なります。

また、第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「オセアニア」について重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

①日本

建設用クレーンの需要が堅調に推移する中、売上高は868億4千7百万円、営業利益は108億4千6百万円となりました。

②欧州

建設用クレーンの需要が減少する中、厳しい調達環境による生産制約の継続もあり、売上高は387億6千4百万円、営業利益は66億8千6百万円の損失となりました。

③米州

建設用クレーンの需要が増加する中、売上高は438億5千6百万円、営業利益は41億1千7百万円となりました。

④オセアニア

建設用クレーンの需要が拡大する中、売上高は64億7千1百万円、営業利益は10億9百万円となりました。

⑤その他

全ての地域で建設用クレーンの需要が拡大する中、売上高は27億7千1百万円、営業利益は4億7千2百万円となりました。

主要品目別の状況は次のとおりです。

①建設用クレーン

需要は、日本では堅調に推移し、海外では欧州を除く全ての地域で増加し、日本向け売上高は、247億5千2百万円、海外向け売上高は、690億3千万円となりました。

この結果、建設用クレーンの売上高は937億8千2百万円となりました。

②車両搭載型クレーン

日本向け売上高は、需要が増加傾向にあり、80億4千7百万円となりました。海外向け売上高は、10億1千7百万円となりました。

この結果、車両搭載型クレーンの売上高は90億6千4百万円となりました。

③高所作業車

高所作業車は、需要が横ばいで推移する中、トラックシャシ供給制約もあり、売上高は72億7千2百万円となりました。

④その他

部品、修理、中古車等のその他の売上高は、231億4千8百万円となりました。

(2) 財政状態

(資産)

総資産は、前連結会計年度末に比べ100億5千7百万円増加の3,667億5千万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少37億5千1百万円があったものの、受取手形及び売掛金の増加14億3千万円や棚卸資産の増加146億1百万円があったことによるものです。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ16億1千9百万円増加の1,905億4千5百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少22億5千5百万円があったものの、短期借入金の増加16億2千3百万円や未払法人税等の増加21億5千2百万円があったことによるものです。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ84億3千7百万円増加の1,762億4百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加22億3千5百万円や為替換算調整勘定の増加50億1千6百万円があったことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ37億8千4百万円減少の942億5百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によって使用された資金は17億5千5百万円（前年同期比142億8千8百万円増）となりました。主な要因は、増加要因として税金等調整前四半期純利益の計上78億8千4百万円や減価償却費の計上28億7千5百万円があったものの、減少要因として棚卸資産の増加65億6千3百万円や仕入債務の減少49億1千6百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によって使用された資金は13億6千7百万円（前年同期比62億9千万円減）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出13億3千4百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によって使用された資金は39億2千4百万円（前年同期比11億7千7百万円減）となりました。主な要因は、短期借入金の減少22億8千9百万円や配当金の支払額10億1千4百万円があったことによるものです。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は43億3千4百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	129,500,355	129,500,355	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株であります。
計	129,500,355	129,500,355	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	—	129,500	—	13,021	—	16,913

(5) 【大株主の状況】

2023年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	13,798	10.87
株式会社日本カストディ銀行	東京都中央区晴海1丁目8番12号	8,013	6.31
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	7,429	5.85
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	6,301	4.96
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	5,246	4.13
株式会社百十四銀行	香川県高松市亀井町5番地の1	5,171	4.07
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	4,000	3.15
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	3,367	2.65
タダノ取引先持株会	高松市新田町甲34	3,289	2.59
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U. S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	3,232	2.54
計	—	59,850	47.15

(注) 1 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社及び株式会社日本カストディ銀行の所有株式数は、全て当該各社の信託業務に係る株式であります。

3 2020年12月22日付けで公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、株式会社みずほ銀行他1社が2020年12月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、株式会社みずほ銀行以外については当社として当第2四半期会計期間末の実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記「大株主の状況」には含めておりません。

なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	5,246	4.05
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8番2号	2,671	2.06
計	—	7,918	6.11

- 4 2021年11月19日付けで公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社他1社が2021年11月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末の実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記「大株主の状況」には含めておりません。

なお、その大量保有報告書（変更報告書）の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝公園1丁目1番1号	3,868	2.99
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂9丁目7番1号	5,939	4.59
計	—	9,808	7.57

- 5 2022年9月5日付けで公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、シルチェスター・インターナショナル・インベスターズ・エルエルピーが2022年9月2日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末の実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記「大株主の状況」には含めておりません。

なお、その大量保有報告書（変更報告書）の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
シルチェスター・インターナショナル・インベスターズ・エルエルピー (Silchester International Investors LLP)	英国ロンドン ダブリュー1ジェイ 6ティール、ブルトン ストリート1、タイムアンドライフ ビル5階	14,963	11.55
計	—	14,963	11.55

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,587,700	—	—
完全議決権株式(その他)(注)1	普通株式 126,820,500	1,268,205	—
単元未満株式(注)2	普通株式 92,155	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	129,500,355	—	—
総株主の議決権	—	1,268,205	—

(注)1 「完全議決権株式(その他)」欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式200株（議決権の数2個）が含まれております。

2 「単元未満株式」欄には当社所有の自己株式88株が含まれております。

② 【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社タダノ	香川県高松市新田町 甲34番地	2,587,700	—	2,587,700	2.00
計	—	2,587,700	—	2,587,700	2.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年1月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3. 決算期変更について

2022年6月24日開催の第74回定時株主総会における定款一部変更の決議により、決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。この変更に伴い、前第2四半期連結累計期間は、当社及び3月決算であった連結対象会社は2022年4月1日から2022年9月30日までの6か月間を、従来より12月決算である連結対象会社は2022年1月1日から2022年9月30日までの9か月間を連結する変則的な決算となっております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	98,158	94,406
受取手形及び売掛金	43,736	45,167
電子記録債権	5,032	5,185
商品及び製品	51,641	59,399
仕掛品	32,249	38,088
原材料及び貯蔵品	25,515	26,519
その他	14,842	11,040
貸倒引当金	△592	△552
流動資産合計	270,583	279,256
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	25,659	25,373
機械装置及び運搬具（純額）	9,406	9,067
土地	25,440	25,737
リース資産（純額）	698	566
建設仮勘定	755	1,090
その他（純額）	4,442	4,586
有形固定資産合計	66,403	66,422
無形固定資産		
2,537		2,600
投資その他の資産		
投資有価証券	7,375	8,569
繰延税金資産	8,389	8,356
その他	1,708	1,849
貸倒引当金	△303	△303
投資その他の資産合計	17,169	18,471
固定資産合計	86,110	87,494
資産合計	356,693	366,750

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	40,034	37,779
電子記録債務	8,860	7,115
1年内償還予定の社債	—	10,000
短期借入金	40,209	41,832
リース債務	1,329	1,307
未払法人税等	1,734	3,887
製品保証引当金	3,547	3,776
排ガス規制関連損失引当金	6,935	7,578
未払金	8,309	8,197
その他	8,771	9,540
流動負債合計	119,734	131,015
固定負債		
社債	50,000	40,000
長期借入金	3,510	3,210
リース債務	3,287	3,346
繰延税金負債	709	747
再評価に係る繰延税金負債	2,109	2,109
退職給付に係る負債	8,603	8,962
その他	972	1,154
固定負債合計	69,192	59,530
負債合計	188,926	190,545
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,021	13,021
資本剰余金	16,838	16,847
利益剰余金	129,202	131,437
自己株式	△2,450	△2,380
株主資本合計	156,611	158,926
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	989	1,780
土地再評価差額金	3,096	3,096
為替換算調整勘定	6,842	11,858
退職給付に係る調整累計額	△313	△275
その他の包括利益累計額合計	10,615	16,460
非支配株主持分	539	817
純資産合計	167,767	176,204
負債純資産合計	356,693	366,750

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	131,310	133,267
売上原価	99,878	97,163
売上総利益	31,431	36,104
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	3,552	4,450
広告宣伝費	413	875
製品保証引当金繰入額	240	612
貸倒引当金繰入額	18	△70
人件費	10,249	8,907
退職給付費用	356	356
旅費及び交通費	550	595
減価償却費	856	819
研究開発費	4,952	4,334
その他	5,799	6,426
販売費及び一般管理費合計	26,991	27,306
営業利益	4,440	8,797
営業外収益		
受取利息	39	54
受取配当金	63	68
その他	202	254
営業外収益合計	306	377
営業外費用		
支払利息	385	760
為替差損	—	380
その他	159	214
営業外費用合計	544	1,355
経常利益	4,201	7,820
特別利益		
欧州事業再生関連収益	※1 634	—
固定資産売却益	2,479	58
投資有価証券売却益	17	—
関係会社清算益	—	56
特別利益合計	3,131	115
特別損失		
固定資産除売却損	32	50
減損損失	※2 792	—
インド事業再編関連損失	※3 1,202	—
投資有価証券売却損	—	0
特別損失合計	2,027	51
税金等調整前四半期純利益	5,304	7,884
法人税、住民税及び事業税	2,971	4,670
法人税等調整額	1,096	△275
法人税等合計	4,067	4,394
四半期純利益	1,236	3,489
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△741	239
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,978	3,250

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	1,236	3,489
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△237	791
為替換算調整勘定	8,827	5,054
退職給付に係る調整額	102	38
その他の包括利益合計	8,691	5,883
四半期包括利益	9,928	9,373
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,553	9,095
非支配株主に係る四半期包括利益	△624	277

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,304	7,884
減価償却費	3,492	2,875
減損損失	792	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△40	△94
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△73	117
関係会社清算損益 (△は益)	—	△56
受取利息及び受取配当金	△103	△123
支払利息	385	760
投資有価証券売却損益 (△は益)	△17	0
固定資産除売却損益 (△は益)	△2,446	△7
売上債権の増減額 (△は増加)	9,640	71
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△13,009	△6,563
仕入債務の増減額 (△は減少)	△4,710	△4,916
その他	△8,333	976
小計	△9,119	922
利息及び配当金の受取額	103	123
利息の支払額	△403	△695
法人税等の支払額	△6,624	△2,106
営業活動によるキャッシュ・フロー	△16,043	△1,755
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	3,067	△18
有形固定資産の取得による支出	△2,562	△1,334
有形固定資産の売却による収入	4,651	196
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	127	0
関係会社の整理による収入	—	56
その他	△361	△268
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,922	△1,367
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,506	△2,289
長期借入金の返済による支出	△183	—
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の処分による収入	0	—
配当金の支払額	△507	△1,014
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△72	—
その他	△477	△619
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,747	△3,924
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,491	3,262
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△9,376	△3,784
現金及び現金同等物の期首残高	115,196	97,990
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 105,819	※ 94,205

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

販売先の提携リース会社等からのファイナンスに対する保証

前連結会計年度 (2022年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)	
Vernazza Autogru Srl	234百万円	Vernazza Autogru Srl	237百万円
(株)オートレント	196 "	(株)オートレント	161 "
(株)坂野クレーン	164 "	Gustav Adolf Neeb GmbH & Co Kg	152 "
その他83社	1,460 "	その他76社	1,293 "
計	2,054百万円	計	1,844百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 欧州事業再生関連収益

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

前第2四半期連結累計期間において、タダノ・デマージGmbHとタダノ・ファウンGmbHの事業再生手続きの支払い終了に伴い、債務免除益を欧州事業再生関連収益として634百万円を特別利益に計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

該当事項はありません。

※2 減損損失

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社及び子会社において、当初想定されていた収益が見込めなくなったものや将来の使用見込みがなくなったものが発生したため、回収可能価額をゼロと見積り、減損損失(792百万円)を認識しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

該当事項はありません。

※3 インド事業再編関連損失

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社は2018年に農業機械や建設機械を製造する現地の有力メーカーと合弁会社タダノ・エスコーツ・インディアPvt. Ltd. を設立し、インド市場向けの製品開発・製造に取り組んでまいりました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響もあって製品開発に遅れが生じたことに加え、その間の市場・競合環境の変化を受け、この度、インド市場向け製品の開発・製造を中止、同社を完全子会社化することとしました。これに伴い、インド事業再編関連損失1,202百万円を特別損失に計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
現金及び預金	106,102百万円	94,406百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△283 "	△200 "
現金及び現金同等物	105,819百万円	94,205百万円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	507	4.00	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年3月30日 定時株主総会	普通株式	1,014	8.00	2022年12月31日	2023年3月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年8月10日 取締役会	普通株式	507	4.00	2023年6月30日	2023年9月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	日本	欧州	米州	オセアニア	計				
売上高									
建設用クレーン	21,242	16,098	38,156	7,414	82,911	3,976	86,887	—	86,887
車両搭載型クレーン	7,310	—	—	156	7,467	570	8,037	—	8,037
高所作業車	8,069	—	—	161	8,231	81	8,312	—	8,312
その他	10,347	9,564	5,047	1,366	26,325	1,747	28,072	—	28,072
顧客との契約から 生じる収益	46,970	25,662	43,203	9,099	124,935	6,374	131,310	—	131,310
外部顧客への売上高	46,970	25,662	43,203	9,099	124,935	6,374	131,310	—	131,310
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16,070	21,095	358	72	37,597	595	38,193	△38,193	—
計	63,040	46,758	43,562	9,172	162,533	6,970	169,503	△38,193	131,310
セグメント利益又は損失 (△)	4,957	△6,780	3,523	633	2,333	631	2,965	1,475	4,440

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アジア等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額には、主なものとして、セグメント間未実現利益調整額1,440百万円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」及び「その他」セグメントにおいて、当初想定されていた収益が見込めなくなったものや将来の使用見込みがなくなったものが発生したため、回収可能価額をゼロと見積り、減損損失を認識しております。

なお、第2四半期連結累計期間において、当該減損損失として「日本」83百万円、「その他」708百万円をそれぞれ計上しております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	日本	欧州	米州	オセアニア	計				
売上高									
建設用クレーン	32,361	16,032	39,892	5,106	93,393	388	93,782	—	93,782
車両搭載型クレーン	8,612	—	—	84	8,697	367	9,064	—	9,064
高所作業車	7,237	—	—	35	7,272	—	7,272	—	7,272
その他	10,839	6,430	3,377	1,144	21,791	1,356	23,148	—	23,148
顧客との契約から 生じる収益	59,050	22,462	43,270	6,371	131,154	2,112	133,267	—	133,267
外部顧客への売上高	59,050	22,462	43,270	6,371	131,154	2,112	133,267	—	133,267
セグメント間の内部売上高 又は振替高	27,797	16,302	586	99	44,786	659	45,445	△45,445	—
計	86,847	38,764	43,856	6,471	175,940	2,771	178,712	△45,445	133,267
セグメント利益又は損失 (△)	10,846	△6,686	4,117	1,009	9,286	472	9,758	△961	8,797

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アジア等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額には、主なものとして、セグメント間未実現利益調整額△1,044百万円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「オセアニア」について、重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報については、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純利益	15円60銭	25円62銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,978	3,250
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,978	3,250
普通株式の期中平均株式数(千株)	126,791	126,847

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 【その他】

第76期（2023年1月1日から2023年12月31日まで）中間配当については、2023年8月10日開催の取締役会において、2023年6月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|-----------|
| ① 配当金の総額 | 507百万円 |
| ② 1株当たりの金額 | 4円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2023年9月5日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月9日

株式会社タダノ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

高松事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

佃

弘一郎

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

田

中

賢治

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社タダノの2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社タダノ及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認め

られないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年8月10日

【会社名】 株式会社タダノ

【英訳名】 TADANO LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 氏家 俊明

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 香川県高松市新田町甲34番地

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長氏家 俊明は、当社の第76期第2四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。